

名前鑑賞入門

私は昔から人の名前を見るのが好きです。たくさんの人の名前がフルネームで並んでいるのを見ると、ついじーっと見てしまいます。例えば学校の名簿、PTA総会の資料、妹が持ち帰ってきた三者懇談の予定表、教科書裏の監修者一覧など……。自分でも無意識にやってきた他人の「名前鑑賞」。その観点は大きく分けて三つあることを発見しました。三つの観点はそれぞれが完全に独立しているわけではありませんが。互いに影響を与え合って「いい名前」を形作っているのです。ちなみに、今から例として出てくる名前で特に引用元が書いていないものは私が説明のために作った名前です。特定の個人とは関係ありません。

観点の一つ目にして一番大切なのは、「名字と名前の相性」です。七割くらいこれで決まるといっても過言ではありません。例えば「剛田 姫」(ごうだ ひめ)ちゃんという名前の人がいるとします。「剛田」という名字の持つ強そうな印象。「姫」という名前の可愛らしいイメージ。これらがぶつかり合い、チグハグなかんじがしてしまいます。もう一つ例を挙げると、「赤塚 緑」(あかつか みどり)さん。名字に赤、名前に緑。色を表す名詞が二個使われていて、ちょっと押しが強いです。それに、これだと一年中クリスマスになってしまえます。このように、名字と名前のマッチ感は大切ということは分かっていただけでしょう。か。その上で私がすごくいいな、と思うのが、「名字と名前での一つの風景が思い浮かぶ名前」です。これも例を出すと、「歌田 茜」(うただ あかね)さん。田舎で、

周りは一面田んぼ。夕暮れの帰り道を、鼻歌を歌いながら歩いてる……。といった、美しい光景が浮かんでくる名前です。このような効果を生み出しているのが、「名前に名詞を使うこと」です。花、海、雨、空、月など自然に関係するもの。また、都、音などもいいですね。ただ、「人」や「子」は名詞だけどちょっと違います。これらを使う名前はだいたい形容詞十人(子)で〇〇な人(子)となります。もちろん、この形で素敵な名前はたくさんあります。でも、風景が思い浮かぶというのとは違いますよね。それから、名詞の安直すぎる組み合わせも良くありません。「森 直樹」という名前。これは森と樹でいいじゃん!と思うかもしれませんが。でも森に木があるのは当たり前です。それに対して「歌田 茜」。「歌田」ときいただけでは空がどうなっているのかの情報がありません。空は風景を思い浮かべる上で重要です。真夏で入道雲が立っているかもしれないし、どんより曇っているかもしれない。だけど「茜」ときけば、夕焼けで赤い空なんだな、と分かります。同じ「森」という名字でも、小説家の森絵都さんは名前からどんどんイメージが広がりますよね。俳句の取り合わせのように、直接関係のない語同士の生む効果が素敵なのです。

二つ目の観点は「音の響き」です。ア行、マ行、ヤ行はやわらかくて可愛い。サ行・タ行が入るとスマートで引き締まった印象。ラ行は高貴で綺麗なかんじがします。響きがいい名前として挙げたいのが、ジブリ「千と千尋の神隠し」の主人公、荻野千尋です。「ちひろ」という響きの、やわらかさとかっこ良さのバランス。名字と名前からイメージされる「旅」っぽさも素敵です。カ行は発音しにくかったり、ナ行・ハ行はつかみどころがないかんじがして個人的にあまり好きではないです。しかしどの

行が言いやすいかは人によって違うと思います。だから、音の響きに関してはかなり人によって好みが分かれるところだと思います。響きがいい名前って、つい声に出して読みたくなりますよね。

三つ目がオリジナリティーです。「鈴木和子」(すずき かずこ)さんと「鈴木美都」(すずき みと)さん。同じ和風な名前でも、後者の方がパツと見た時目を引かれませんか。よく見かける名前はどうしても新鮮さが薄れてしまいますが、珍しい名前だとおっと思いますよね。キラキラネーム一歩手前くらいが丁度良いのです。

以上三つの観点を紹介してみました。三つ全部を兼ね備えている名前は中々ありません。だから、響きは固いけどストーリーがいい名前もあります。反対に風景は浮かんでこないけど響きがいい名前もあります。よくあるけど素敵な名前も存在するわけです。名前には色々な願いが込められていて、それが私が名前をつい見ってしまう理由なのかもしれません。名前鑑賞はちょっとした時間のいいヒマ潰しになります。機会があったらぜひやってみて、自分の好きな名前を見つけてください。